

神戸市ソーシャルビジネス推進助成
平成29年度

活動報告会

平成30年7月1日

神戸市市民参画推進局参画推進部市民協働課

目 次

【準備・創業期】

(ページ)

寄付付きオークションサイト構築と寄付品受付作業所の整備・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
一般社団法人ウルノス

神戸アジアン食堂バル SALA の人気メニュー

「台湾魯肉飯（ルーローファン）」真空パックの拡散販売・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
株式会社 CASA GLOBAL

PROJECT DOR

-地域と連携したクリエイターのスタートアップを支援するプロジェクト-・・・・・・・・ 5
一般社団法人 DOR

【発展期】

(ページ)

女性への暴力防止活動および被害者の支援活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
特定非営利活動法人フェミニストカウンセリング神戸

団体名 : 一般社団法人ウルノス

事業名 : 寄付付きオークションサイト構築と寄付品受付作業所の整備

実施期間 : 平成 29 年 4 月 1 日 (土) ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (土)

活動のねらい

NPO 団体等が活動資金を得ること、及び寄付者に NPO 団体等の活動情報を十分に届けることを支援するため、NPO 支援プラットフォーム「Kifu de Mode」を構築。「Kifu de Mode」では、契約先 NPO 団体についての情報発信を行うとともに、モノで寄付できる仕組み「モノキフ」を組み込み、寄付の選択肢の幅を広げる。

また、ウルノス板宿店の整備を行い、コミュニティスペース部分は商店街及び地域の無料休憩所として開放。

実施した内容

1. NPO 支援情報プラットフォーム「Kifu de Mode」を構築。
2. 認定 NPO 法人まち・コミュニケーション、NPO 法人場とつながりの研究センター等 30 以上の NPO 団体にコンタクトをとり、事業説明やヒアリング、取材を実施。ボランティアにも参加。
3. ウルノス板宿店ではドアの設置などの整備を行い、事務所、寄付品受付場所、通販の拠点として活用。
4. コミュニティスペース部分は商店街及び地域の無料休憩所として営業時間内は、常時開放。

達成された成果等

1. 事業説明やヒアリングを行った団体の中から、16 の団体と契約。契約団体は、情報プラットフォーム「Kifu de Mode」に取材内容を掲載し、情報発信を実施。
2. モノで寄付する仕組み「モノキフ」を広報するため、リーフレット作成し、契約団体の会員等にも配布。2 団体に「モノキフ」での売上から寄付金を集めることができた。
3. ボランティアに参加することにより、人的ネットワークが広がった。
4. コミュニティスペース部分を無料休憩所として開放を行うことによって、商店街の活性化や高齢者の多い地域の買い物客の休憩場所として役に立った。

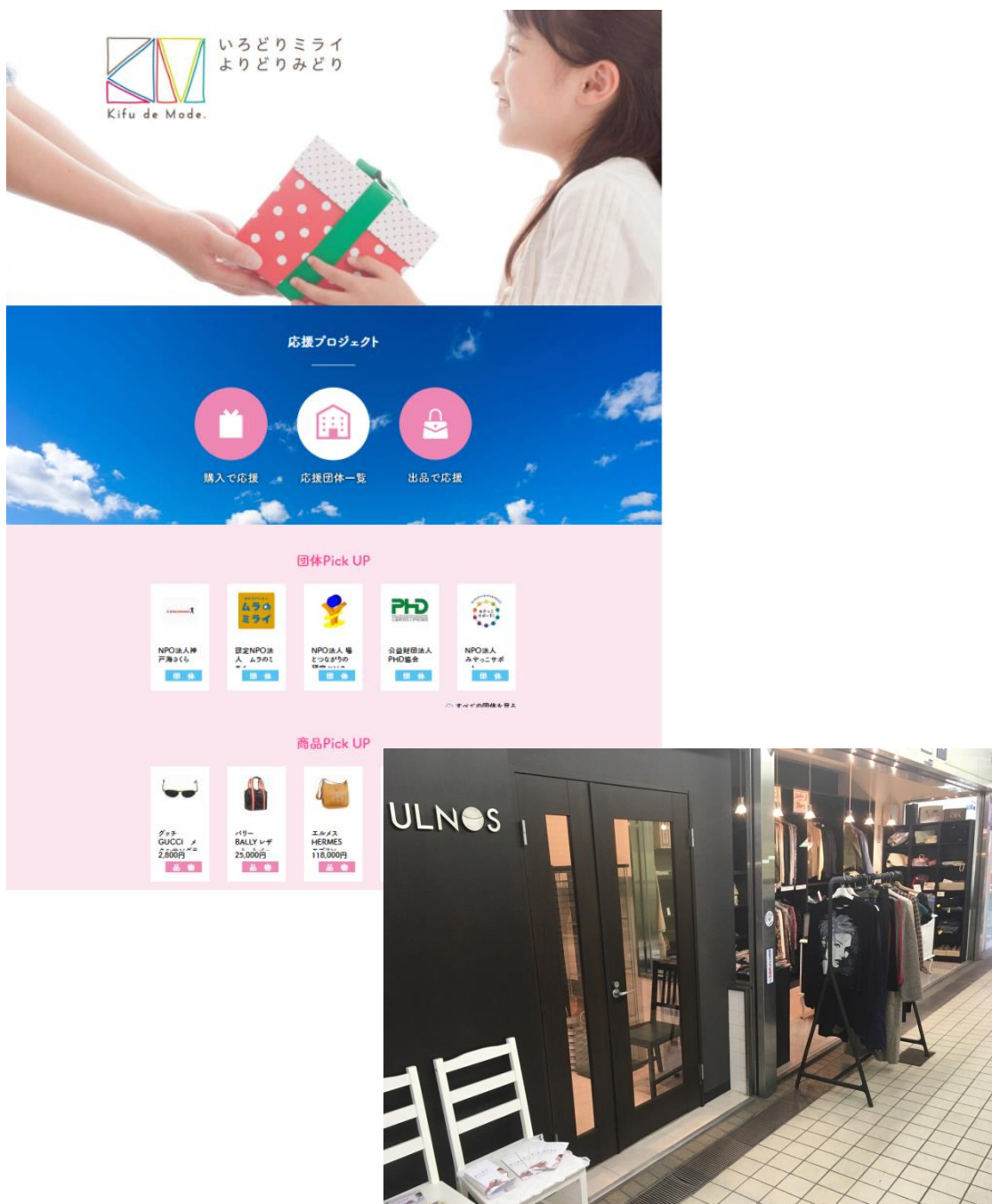
活動を通じて団体に蓄積されたもの

1. 神戸を中心とした NPO 団体等との人的ネットワークが豊富になった。
2. ヒアリング調査により、NPO 団体等の情報発信における課題が明確になった。
3. モノキフの販売から寄付までの仕組みの法的枠組みを整備することができた。
4. 神戸市ソーシャルビジネス推進助成に採択されたことで、信用度が増し、「神戸スター

トアップオフィス事業第5期」の採択、「大阪 NPO センター第10回ソーシャルビジネスプランコンペ特別賞」の受賞などができた。

今後の事業展開や展望等

1. 契約団体を増やし、NPO 専門の信頼度の高い情報発信プラットフォームサイトとして成長していく。
2. 情報発信プラットフォームを通じて、ボランティアのマッチングサイトなどを検討する。



団体名 : 株式会社 CASA GLOBAL

事業名 : 神戸アジア食堂バル SALA の人気メニュー

「台湾魯肉飯 (ルーローファン)」真空パックの拡散販売

実施期間 : 平成 29 年 6 月 1 日 (木) ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (土)

活動のねらい

就労困難により自信を喪失した在日アジア人女性に対して、在日アジア人女性の強みを使った就労の場を提供することで、経済的、社会的自立を果たす。

実施した内容

神戸アジア食堂バル SALA の人気メニュー「台湾魯肉飯 (ルーローファン)」真空パックの拡散販売を行う

1. 真空パック商品のロゴなどのデザイン、印刷
2. ショッピングモール楽天市場へ出店。全国販売を開始。

達成された成果等

1. 楽天市場、野外イベント、阪急キッチンエールでのカタログ販売、店舗での持ち帰り販売等で合計 2320 食を販売。
2. 楽天市場においては約 170 名の顧客情報を得ることができた
3. 既存店「神戸アジア食堂バル SALA」にて、魯肉飯の仕込みのため、新たな 2 名のスタッフの雇用が生まれた。
4. 真空パックの販売を行うことで具体的なリアル店舗である「魯肉飯専門店」の出店への計画が具体化した。商品のモデルである台湾人シェフの自立への道ができた。
5. 商品化するまでのマニュアルができたため、魯肉飯だけでなく、「神戸アジア食堂バル SALA」の他の商品化も検討することができた。今後更なる販路の拡大、商品数の拡大、雇用の拡大が期待できる。
6. ネットショッピングモール「楽天」における販売に関する課題が明確になった為、対策を立てることができた。

活動を通じて団体に蓄積されたもの

1. 出店する際のページの作り込み、広告の打ち方などについては、専門家派遣制度を利用することでプロのアドバイスを受け、商品を売ることへ力を注ぐことができるようになった。そこで IT 系の様々な方々との新たなネットワークも構築できた。ネットショッピングモールで商品を自力で販売することの難しさを知り、それを打破するためのノウハウを得ることができた。
2. 今後他の商品を商品化するためのマニュアルができた。

3. 今後多くの商品を生産、販売するにあたってセントラルキッチン等、必要なものがみえてきた。
4. 大量生産するための各スタッフの技術が向上した。

今後の事業展開や展望等

1. 自社ショッピングサイトを構築し、2018年9月には楽天から離脱する。
2. 「魯肉飯専門店」リアル店舗の出店を実現させ、通販との両輪で事業の拡大及び雇用の拡大を図る。
3. 他商品の商品化、ヒット商品の実店舗としての出店等のパッケージ化を行う。



団体名 : 一般社団法人 DOR

事業名 : PROJECT DOR

-地域と連携したクリエイターのスタートアップを支援するプロジェクト-

実施期間 : 平成 29 年 4 月 1 日 (土) ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (土)

活動のねらい

若手人材の地域外への流出を防ぐため、クリエイター（デザイナーやアーティスト）の移住を促進するために仕事を受注するプラットフォームを整備する。

実施した内容

1. 市内で活動している若手クリエイターやアーティスト（以下、クリエイター）の存在を顕在化するため、要となる情報を集約したウェブサイト構築。
2. クリエイターがより積極的に市内での営業活動を展開。
3. クリエイターが地域活動においても活躍する機会の増加。
4. クリエイターの移住の促進。

地下鉄海岸線沿線のプロモーションサイト構築やコンテンツ制作、株式会社フェリシモのプロモーションビデオの企画制作など多様な事業を受託したことで、多くのクリエイターと協働し、神戸市内のクリエイターのネットワークは広がっていった。

達成された成果等

1. 神戸市内でのクリエイターが受託する仕事の増加。
2. クリエイター同士の交流による制作物などクオリティの向上。
3. 人口減少しているエリアへの移住者（1年間で4名）
4. クリエイターが地域活動の担い手、ハブとなる状況を新長田で構築。

活動を通じて団体に蓄積されたもの

1. 神戸市内のクリエイターのネットワークをより深く構築することができた
2. 様々な案件を受託し相談を受ける中で、市内企業等を感じるフリーランスのクリエイターへ発注することの抵抗感、また同時に期待している部分など、発注者側の実際的な意見を伺うことができ、次年度以降の活動を思考することができている

今後の事業展開や展望等

企業や行政、地域団体などのクライアントとクリエイターをコーディネートするだけでは案件はうまく進まないという課題が浮き彫りになった。そのクリエイターとクライアントの間に入り、コミュニケーションの仲介をおこない、進捗・予算管理などのマネジメントだけでなく、事業全体を見据えた編集、ディレクション機能を担うことができなければ、

うまく進まない。神戸市内の状況を鑑みると、クリエイターは多くいるが、ディレクションを担うアートディレクター、編集者が非常に少ない。そのため、現状では当法人の機能としてディレクション、編集を担う必要が多くあった。今後、クリエイターがどのようにすれば、ディレクションを担えるようになるか、検討を重ねていきたい。

団体名 : 特定非営利活動法人フェミニストカウンセリング神戸

事業名 : 女性への暴力防止活動および被害者の支援活動

実施期間 : 平成 29 年 4 月 1 日 (土) ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (土)

活動のねらい

女性への暴力を未然に防ぐこと、及び被害にあった女性への心理的なケアをすることを目的とした電話相談窓口、カウンセリング事業を実施。行政などの公的機関と協働しながら、女性が主体的に生きられるよう支援している。

実施した内容

1. 現状と課題を他都市の団体と意見交換

行政と協働して配偶者暴力相談支援センターを運営している民間団体として、同様の事業を担っている他都市の民間団体と意見交換を実施。

2. 支援員・相談員養成講座及びスキルアップ講座の開催

講師を招き、各現場から生まれ蓄積された知恵とスキルに加え、ジェンダーの視点がどのように活かされ、効果をあげているのかを講義頂いた。

3. 相談員研修・スーパーバイズ事業の開催

講師を招き、関係性を築きにくい被害者を支援していくための工夫や必要な留意点などケースを通して講義頂いた。

達成された成果等

配偶者暴力相談支援センターが業務を始めて 10 年が経ち、相談や支援につながりにくかった女性が少しずつつながるようになってきたが、他都市との情報交換会や支援スキルアップ講座を通して、今でも支援の手が届かない女性の実態を再確認した。丁寧に被害者の声を聞き、被害に遭った女性が安全に暮らしていくために寄り添い続ける必要性を痛感した。

活動を通じて団体に蓄積されたもの

他都市との情報交換会の中で、組織として業務全体を振り返ったことも重要だが、相談員がそれぞれに振り返り、支援の実績を見直したことが有意義であった。

今後の事業展開や展望等

1. 疲弊度が高い相談事業の中で、業務の質を維持しながら継続して関わる相談員が長く働き続けられるように配慮し、次世代へどのように引き継いでいくかが大きな課題。
2. 心理職は国家資格化するため、それも念頭に置きながらさらなる研鑽を積んでいけるようなシステムづくりをしていく。